

開講年度	令和8年度	開講課程	博士課程
授業名	社会医学特別演習Ⅱ		
開講キャンパス	紀三井寺	教室	各研究室
科目区分	特別科目	配当年次	1～2年次
必修・選択の別	選択	単位	2単位
対象学生	—	使用言語	日本語
キーワード	<p>(法医学) 突然死、自殺 (環境保健予防医学) 生活習慣病の予防 (臨床感染制御学) 細菌感染症、抗微生物薬、遺伝子診断、院内感染、薬剤耐性菌、分子疫学的解析 (成育社会医学) こども、健康 (公衆衛生学) がんの予防、ワクチン、検診</p>		
担当教員 (下線：科目責任者)	医	(法医学) 教授 <u>近藤稔和</u> 、准教授 石田裕子、講師 野坂みずほ、講師 石上安希子 (環境保健予防医学) 教授 藤吉 朗、准教授 東山 綾、助教 竹村重輝 (臨床感染制御学) 教授 小泉祐介 (成育社会医学) 准教授 北野尚美 (公衆衛生学) 教授 上田 豊	
	薬		
授業の概要	法医学、環境保健予防医学、臨床感染制御学、成育社会医学、公衆衛生学の各分野において講義及び演習を行う。本演習では、各分野における専門的な知見を学ぶとともに、最近の論文を抄読し、最新の研究動向を理解する。またディスカッションを行うことにより、幅広い視点から自ら考察する能力及び課題発見力を養うとともに、研究結果の解釈法や発表方法について学ぶ。		
到達目標	<p>(法医学) 突然死や自殺の動向について理解する。</p> <p>(環境保健予防医学) ①生活習慣病(循環器疾患や認知症を含む)に関する幅広い知見を得るとともに、論文の建設的な批判的吟味ができる。 ②研究テーマに沿った統計手法を理解・説明できる。</p> <p>(臨床感染制御学) 感染制御学(薬剤耐性菌感染症やウイルス性疾患による院内感染の発生メカニズム・伝播リスク・アウトブレイク時の対応)について最新の文献を元に知識を修得し、主体的に学んで理解を深める。</p> <p>(成育社会医学) 地域や学校など公衆衛生が対象とする子ども集団において健康状況把握のための指標の測定方法と評価方法を修得する。集団における健康度と疾病発生の疫学特性を記述し、健康状況と環境要因との関連を評価するための分析手法を修得する。</p> <p>(公衆衛生学) 子宮頸がんを中心に、女性特有のがんの予防について理解する。とくに、ワクチンや検診の有効性や限界を理解する。</p>		

授業計画	<p>(法医学) 法医学の中でも突然死や自殺の異状死に関する最新の文献を読み発表・議論する。(近藤稔和/石田裕子/野坂みずほ/石上安希子)</p> <p>(環境保健予防医学) ①生活習慣病の予防に関する論文を精読し、内容の説明および建設的批判的吟味を加えて発表する。②学会発表に準じた形でのプレゼンテーションや学術論文に準じた形式での報告書作成を行う。(藤吉 朗/東山 綾/竹村重輝)</p> <p>(臨床感染制御学) 感染制御学(院内感染や感染制御の基本)に関する概説的な講義を行う。(小泉祐介)</p> <p>(成育社会医学) 研究チームの一員としてフィールドスタディに参加して子ども集団を観察し、健康状況や環境因子の測定に関わる経験をする。子どもの年齢や発達段階に応じた健康状況把握のための指標と、妊娠期(胎児期)から子ども期の生育環境の曝露指標について、既存データセットを用いてセミナー形式で演習する。(北野尚美)</p> <p>(公衆衛生学) 子宮頸がん等の予防に関し、最新のデータも交えて概説的な講義を行う。(上田 豊)</p>
授業の方法・形態	演習を中心とする。
使用するメディア	パワーポイント等によるスライド資料を使用する。
成績評価の基準	研究への取組100%(討議内容、ディスカッションへの参加姿勢、研究技能の修得状況、発表内容など)によりS(90点以上)、A(80~89点)、B(70~79点)、C(60~69点)、D(59点以下)の5段階で評価し、C以上を合格とする。
授業時間外の学修に関する指示	教科書・参考書が指定されている場合は予習を行うとともに、各回終了後には復習を行うこと。そのほか、各担当教員の指示に従うこと。
オフィスアワー(学生からの質問事項等への対応)	担当教員により異なるため、希望する場合はメール又は電話により予約すること。
教科書・参考書	<p>(法医学) 【教科書】特に指定しないが、担当者が作成した資料を配布する。 【参考書】「死体検案ハンドブック」 著者：近藤稔和ら 出版社：金芳堂 「検死ハンドブック」 著者：高津光洋 出版社：南山堂 「標準法医学」 著者：池田典昭 出版社：医学書院</p> <p>(環境保健予防医学) 別途指示する。</p> <p>(臨床感染制御学) 【教科書】「Mandell, Douglas, and Bennett's Principles and Practice of Infectious Diseases, 9th edition」 著者：John E. Bennettら 出版社：Elsevier 【参考書】「Clinical Microbiology Reviews」 出版社：American Society of Microbiology Press</p> <p>(成育社会医学) 【参考書】「医学的研究のための多変量解析 第2版-標準一般化線形モデルから一般化推定方程式まで：最適モデルの選択、構築、検証の実践ガイド-」 著者：カツツ, ミッチェル・H. 訳：木原正博ら 出版社：メディカルサイエンスインターナショナル 「アドバンスト分析疫学-369の図表で読み解く疫学的推論の論理と数理-」 著者：スクロ, モイセスら 訳：木原正博ら 出版社：メディカルサイエンスインターナショナル</p> <p>(公衆衛生学) 【参考書】別途指示する。</p>